



ふわふわ言葉とちくちく言葉

～なかよし旬間の取り組みから～

11月11日から22日まで、学校では「なかよし旬間」でした。旬間中には児童会の仲よし委員会が中心となって、姉妹学級でさまざまな交流を企画し、行われました。

その一つ、児童集会では全校が体育館に集まって、姉妹学級ペアでジャンケンやクイズで遊んだり、「ありがとうの花」を一緒に歌ったりしました。また、別の時間には、姉妹学級ごとに、おにごっこをしたり、「仲よし給食」ということで、クラス半数ずつ入れ替わって一緒に給食を食べたりしました。



また、各学級では、「ふわふわの虹」という、友だちのよいところをカードに記入して、学年ごとに、虹が描かれている模造紙に貼り合わせる取り組みをしました。『わたりぼうがじょうすだね』『いつもいっしょに遊んでくれるからうれしいよ』（1年生）『いつも笑顔で、そこが好き』『いつも一緒にしゃべってくれてありがとう』（2年生）『いつも堂々と自分の意見を言っていていいと思います』『あなたは、絵が上手です。今度教えてください』（3年生）『分からなくて困っている時、「どうしたの?」と言ってくれてありがとう』『いつも、外で体をたくさん動かしていて、すごいなと思います』（4年生）『どんな問題でも迷わず手を挙げて発言していてすごいと思います』『人がいない時、間に入ってカバーしてくれて助かります』（5年生）『いつもそうじの時に、自分から進んでぞうきんがけや机を運んでいて真似したいなと思いました』『細かいことにも気が付いてすぐに行動をしてすごいと思います』（6年生）

といった具合です。子どもたちは、よく友だちのことを見ているんだなあと感じますし、またそれを認め合える優しさがあることがとても嬉しいですね。

旬間に合わせた校長講話では、ことばえらびえほん『ふわふわとちくちく』（齋藤 孝 監修）から、相手の心が元気になったり楽しくなったりする「ふわふわことば」と相手の心が痛くなったり悲しくなったりする「ちくちくことば」、それぞれのことばの意味を理解し、相手の気持ちに寄り添った「ふわふわことば」を使えるようになりましょう、というお話がありました。たった一言でも、簡単に相手をうれしくさせたり、悲しくさせたりする言葉。どんな言葉を選ぶかでその人の心もわかるように思います。本の中に、「ちくちくことば」を「ふわふわことば」に変えてみようという内容が出てきます。例えば、「貸して」と言われて、「やだ!」と断るのではなく、「ちょっとまって」と言ったり、人に頼み事をするのに、「やってよ!」と強く言うのではなく、「お願いしてもいい?」と言ったり…。

この旬間を通して、自分の使う「言葉」を見直し、相手を思いやる言葉について考え、選択し、使おうという気持ちを育みたいと思います。



渡り廊下に掲示された「ふわふわの虹」